

そよ風のように優しくさりげない存在を目指して

Breeze

vol.02

For freedom to move by a gentle and safety method.



誰よりも大切な同乗者のために
クルマづくりでもっとも大切にされるべき、安全性とは

CHILD SAFETY

あなたにとってかけがえのない命を守るために

ベビーシートからブースタークッションまで。ボルボのチャイルドシートは進化を続ける。



ボルボが50年にわたり取り組んできた重要なテーマのひとつが、子供を車に乗せてドライブする際の安全性です。ベビーシートからブースタークッションまで、ボルボのチャイルドシートの研究は1960年代から続いています。実は、業界初の後ろ向きチャイルドシートはボルボから販売されました。現在に至るまで、長年の研究で培った知識や技術を注ぎ込み、安全性の追求はもちろん、快適性や利便性も絶え間なく進化させ続けています。



あなたとあなたの家族のための新世代チャイルドシート

1964年、ボルボは世界で初めてのチャイルドシートの試験を実施いたしました。幼い子供は筋肉だけでなく、骨もまだ未熟な状態です。後ろ向きチャイルドシートは、車の衝突時の子供の負傷リスクを大幅に下げることがわかっています。50年以上培ってきた開発ノウハウが凝縮された、ボルボの新世代のチャイルドシートは家族の安全と快適な空間を提供するため、デザイン性にも優れています。

チャイルドシートに関する Q&A

Q. 後ろ向きチャイルドシートはどの程度重要なのでしょう？

子供の首は脆いので正面衝突の影響で引き起こされる「前方に放り出される重圧」に耐えることができません。前を向いたシートでは、衝突の際に首にかなりの負荷がかかります。後ろ向きチャイルドシートなら、この力は子供の背中と頭の全体に分散されます。一般に後方からの追突による衝撃は、正面衝突に比べて高くはありません。

Q. 後ろ向きチャイルドシートは何歳まで？

乳幼児はできるだけ長い期間、少なくとも3～4歳位になるまでは、後ろ向きチャイルドシートをご使用ください。成長し、子供の頭がシートの先端を超えるくらいになった頃に前向きチャイルドシートに換えましょう。成長につれて首は大人のように強くなっていくでしょう。さらに背が伸びることで身体に対する頭の割合がより小さくなっていきます。それまでは後ろ向きチャイルドシートを使用してください。後ろ向きチャイルドシートで脚が完全に伸ばせないということ子供の安全性が阻害されることはありません。

クルマづくりでもっとも大切にされるべき、安全性とは

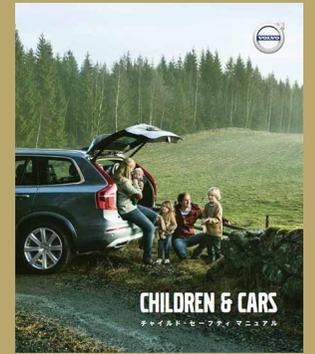
正しい知識が、命を救う

CHILDREN CARS (チャイルド・セキュリティ マニュアル)

ボルボのチャイルドセーフティに対する取り組みをまとめた「Children Cars」。この冊子は子供を持つ方々に、チャイルドセーフティについて正しい知識を伝えることを目的に制作されました。チャイルドシートは、正しい方法で取り付けられていなかったり、子供が正しい位置に着座できていなかったりなど、ミスユースが多いと言われています。本書では、50年以上にわたるボルボの研究成果をわかりやすく紹介しています。



ボルボの長年にわたる安全を最優先にしたクルマづくりと、母親・父親向けのセミナーや雑誌・Web サイトでの活動が認められ、キッズデザイン賞を受賞いたしました。



誤解が過ちをまねく

ある調査によると、3歳児には後ろ向きチャイルドシートの使用が適切にも関わらず、全体のわずか40%しか使用されていません。また、同乗者の膝に子供を座らせて運転している例も多く報告されています。エアバッグの設定についても誤解があります。助手席に後ろ向きチャイルドシートを設置する場合は、助手席のエアバッグをオフにすることが推奨されています。

妊婦と胎児を守るために

安全装置は、お腹の中のもう一人の命も守らなければいけません。ボルボは妊娠中の女性についても注目し、調査と研究に取り組んできました。それにより明らかなのは、妊娠中であってもシートベルトは常に正しく装着すべきだということです。市販の補助装置などでベルトをたるみを持たせることは、危険性を高める可能性があります。

正しく取り付けられていないチャイルドシートや子供用の乗車中の安全に関する誤解によって、子供がケガをしたり、亡くなってしまいうケースが後を経ちません。親は車に乗っている間も変わることはなく、子供の安全を守るための最善の努力を惜しまみません。かけがえのない命を守るため、正しい知識が必要です。

毎月抽選で50名様にプレゼント



Wチャンス
毎月10名様

リサ・ラーソンの
タオルハンカチ



チャイルド・セーフティ・キャンペーン

毎月抽選で50名様に、ボルボオリジナルステッカーと、ボルボのチャイルド・セーフティに対する取り組みをまとめた冊子『チャイルド・セーフティ・マニュアル』、かわいいイラストでドライブするお話を描いたkodomoeとのコラボレーションから誕生した絵本『ボルボのぼるぼけんドライブ』の3点をセットにしてプレゼントいたします。

さらに、当選者の中から抽選で毎月10名様に、やさしくかわいいコケティッシュなキャラクターが日本でも大人気のスウェーデンの陶芸デザイナー リサ・ラーソンの「タオルハンカチ」をプレゼントいたします。

◆キャンペーン期間：2020年6月30日(火)まで

◆当選者数：毎月抽選で50名様

◆プレゼント：

- ①「BABY in VOLVO」ステッカー
- ②チャイルド・セーフティ・マニュアル
- ③kodomoeとのコラボレーションから誕生した絵本『ボルボのぼるぼけんドライブ』

《毎月10名様》リサ・ラーソンのタオルハンカチ

※全7種類 ※色柄はお選びいただけません。

▼応募はコチラから



※「チャイルド・セキュリティ マニュアル」はWEB上などでも配布を行っております。

Evolving safety every day

ボルボが取り組む安全技術は、日々大切なものを守り抜く

ボルボ車には IntelSafe (インテリセーフ) と呼ばれる安全技術が搭載されていることをご存知でしょうか? 現在、すべての新型車に標準装備されているこの安全・運転支援機能は、あらゆる車両の衝突の危険を減らしたいというボルボの願いを実現するために不可欠な要素です。先進の安全・運転支援機能は 16 種類以上も開発されていますが、その中から一部をご紹介します。



ボルボの安全技術 — ボルボの新型車には、16 種類以上の先進安全・運転支援機能が標準装備されています

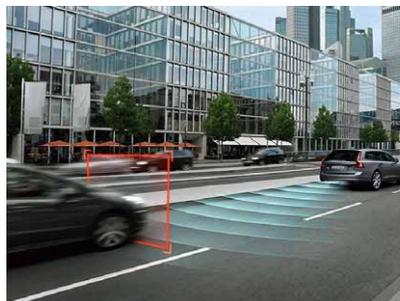


インターセクション・サポート (右折時対向車検知機能)

交差点を右折しようとしている際に対向車の動向を監視し、対向車と衝突する危険度が高いと予測された場合は自動 (被害軽減) ブレーキを作動させ、交差点内での対向車との衝突の回避を図ります。こうした状況では、車両が危険を検知してから衝突を回避する操作を実行するまでに時間的な余裕がないため、衝突警告を発すると同時にフルブレーキを作動させます。

被追突時警告機能 (静止時ブレーキ維持機能付)

後方から急接近する車両による追突の危険を検知した際に、ハザードランプを通常よりも速く点滅させて後方のドライバーに注意を促します。さらに追突の危険が迫ると、フロントのシートベルトを自動的に巻き取り、乗員を衝撃から保護します。また、自車が停止している場合には、最大の制動力で自動 (被害軽減) ブレーキを作動させ 2 次被害の衝突を防ぎます。



全車速追従機能付 ACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール)

設定した速度を上限として、前方車両との車間距離を自動的に調整しながら加速、巡航、減速、停止までを交通の流れに合わせて自動で行い、長距離ドライブの疲労を軽減。前走車が減速して停止すると追従して前走車の後ろで停止し、ブレーキ作動状態を維持します。車速 70km/h を超えて先行車に追従している際にウインカーを操作して追い越し意思を示すと、車両を一時的に加速させてスムーズな追い越しを支援する「追い越しアシスト」機能も備えています。

パーク・アシスト・パイロット (縦列・並列駐車支援機能)

ドライバーに代わってステアリング操作を自動で行い、駐車を支援します。駐車可能なスペースがあることを検知すると、センターディスプレイと液晶ドライバー・ディスプレイに自動操舵の開始を表示。ドライバーは周囲の安全を確認し、ステアリングから完全に手を離して、ブレーキとアクセル、シフトレバーの操作をするだけで駐車できます。縦列駐車だけでなく、直角方向への車庫入れ、縦列駐車からの発進にも対応しています。

